

教職協働で築く教学マネジメントの基盤

—山口大学教学マネジメント室 2022 年度から 2025 年度の歩み—

岩 野 摩 耶
藤 本 正 己
林 寛 子
大 谷 いつ子
渡 邊 早 苗
野 崎 浩 二

要旨

本稿では、2022 年度から 2025 年度における山口大学教学マネジメント室の活動について報告を行う。教学マネジメント室では、「学修者本位の教育」を展開するために中期事業計画（2022 度～2026 年度）を策定し、「教学マネジメント」「FD・SD」「教学 IR」の 3 つの柱を立て、それぞれの体制の構築や強化を図ってきた。本稿では、それぞれの取り組みについて、また特に力を入れた教学 IR と連動した教育改善 FD による教学マネジメントの推進の試みについて述べる。

キーワード

教学マネジメント、FD、SD、教学 IR、教職協働

1 はじめに

山口大学では、2020 年 4 月に教育開発と教学 IR の強化を目指すために、教育・学生支援機構に教学マネジメント室が設置された。本報告では、2022 年度から 2025 年度までの教学マネジメント室における取り組みを中期事業計画で掲げた「教学マネジメント」「FD・SD¹⁾」「教学 IR²⁾」の 3 つの柱を中心にまとめた。

2 教学マネジメント室の活動基盤

教学マネジメント室では、山口大学教学マネジメント室規則により、以下の 7 つの業務を実施している。

- (1) 卒業認定及び学位授与の方針、教育課程の編成及び実施の方針並びに入学受入れの方針の点検・評価に関すること。
- (2) 学修成果及び教育成果に係る情報の把握及び可視化に関すること。
- (3) 職員の教学マネジメント能力の向上及び教育改善に係る活動並びに教学インスティテューショナル・リサーチの推進に関すること。
- (4) 大学教育の質に関する情報の公表に関すること。
- (5) 教学マネジメントに係る調査及び研究に関すること。
- (6) 教育におけるデジタルトランスフォーメーションの推進計画の策定・進捗管理に関すること。

(7) その他前条の目的を達成するために必要な業務に関すること。

教学マネジメント室では本規則に沿って業務を進めてきたが、高等教育政策として2008年の学士課程答申以来叫ばれ続けてきた「学修者本位の教育」も視野に入れてきた。この学修者本位の教育を展開するために教学マネジメント室では中期事業計画（2022度～2026年度）を策定し、図1³⁾に示すように「教学マ

ネジメント」「FD・SD」「教学IR」の3つの柱を立て、それぞれの体制の構築や強化を図ってきた。3つの柱と上記規則との関係性を見ると、「教学マネジメント」は(1)(5)、「FD・SD」は(3)、「教学IR」は(2)(3)(4)に該当する。これら3つの柱については、5か年計画および毎年実施する内容を策定した。なお、毎年度各項目に定めた内容の達成状況の確認・評価を行っている。

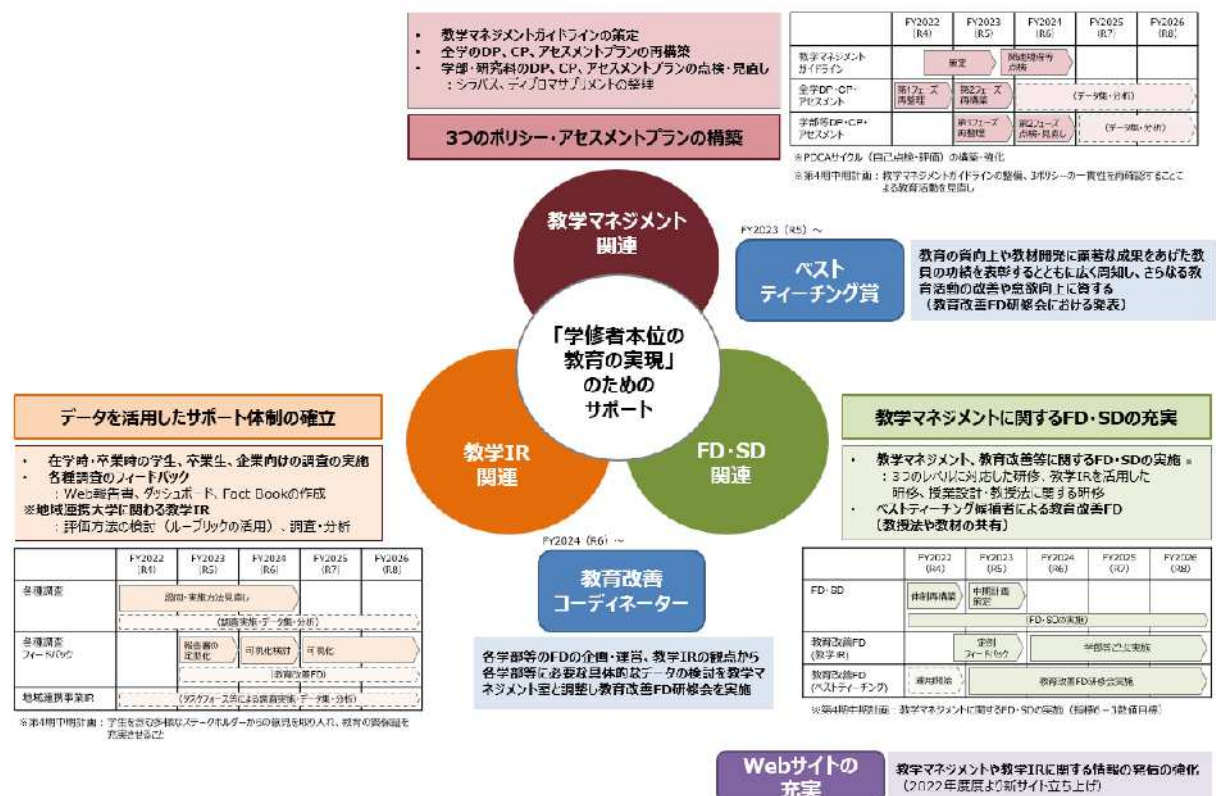


図1 教学マネジメント室の中期事業計画

3 教学マネジメント室の活動基盤

3つの柱の一つ目の「教学マネジメント」では、3つのポリシーやアセスメントプランの構築のため、「教学マネジメントガイドラインの策定」「3つのポリシー（DP・CP・AP）の見直しやアセスメントプランの構築」「シラバスの見直し」を実施した。

「山口大学教学マネジメントガイドライン⁴⁾の策定」では、山口大学の教職員が教学マネジメントを理解し、実践可能とするために、大学全体レベル・学位プログラムレベル・授業科目レベルに分類し、それぞれのレベルで求められる実施内容、実施体制を記載した。策定時点において、山口大学で実施できていない内容や不足している内容を補うことがで

きた。

「3つのポリシー（DP・CP・AP）の見直しやアセスメントプランの構築」では、山口大学としてどのような力を身につけた学生に卒業を認定し、学位を授与するのかを検討するために学部等の教員と教学マネジメント室の教員との協働によるワーキンググループを立ち上げ、全学のDP・CP・APの見直しを図った。全学の3つのポリシーの策定後、各学部・研究科においても同様に3つのポリシーの見直しを検討してもらった。全学および各学部・研究科における3つのポリシーの策定後、大学全体レベル、学位プログラムレベル、授業科目レベルの3つのレベルにおいて、教育成果・学修成果を評価するためのアセスメントプランの構築に取り組んだ。教育成果や学修成果について、多面的・総合的に点検・評価を行うことで、教育改革・改善、学習支援等につなげられるようにした。

「シラバスの見直し」では、シラバスの項目改定、シラバス作成ガイドライン⁴⁾の策定を行った。シラバスの項目改定では、学生や教員にアンケートを実施し、様々な視点からの意見を反映することで、必要な内容の記載とともに、わかりやすいものを整備した。また、シラバス作成ガイドラインでは、これまでであった手引きの内容に加え、単位や授業設計の在り方（授業デザイン）についても記載した。

4 FD・SD 活動

3つの柱の二つ目の「FD・SD」では、教学マネジメントに関するFD・SDの充実を実施していくために、教学マネジメントや教育改善等に関するFD・SD、階層別・対象別のFD、ベストティーチング候補者によるFDを実施している。ここでは、「FD・SD体制の設計」「表彰制度とFD」「動画作成」の3つに分類し報告する。

「FD・SD体制の設計」では、教職員対象のFDとSD、学生対象のTAD³⁾に分け、各対象に求められる研修を図2に示すように設計・実施した。FDの活動としては、全教員を対象とした「全学FD・SD講演会」、ベストティーチング賞の候補者による研修会と各学部・研究科の教育改善を促す研修会の「教育改善FD研修会」、大学リーグやまぐちと連携した「大学教育セミナー」に加え、対象者に合わせた「新任教員研修会」「教育改善コーディネーター研修会」、各学部・研究科が求めるテーマについて、教育・学生支援機構等の教員を派遣する「講師派遣型FD研修会」を実施した。SDの活動としては、人事課が管轄する階層別研修・分野別研修に加え、大学リーグやまぐちと連携し「大学マネジメントセミナー」を実施してきた。TADの活動としては、TA・SA研修会、プレFDとして位置付けている「全学FD・SD講演会」「大学教育セミナー」への学生の参加を促している⁵⁾。また、「山口大学TA・SAガイドブック⁴⁾」を作成し、TA・SAの学生の活動の明確化を図った。

「表彰制度とFD」では、2023年度より「山口大学ベストティーチング賞」を新たに設けた。ベストティーチング表彰制度は、山口大学における教育の質向上や教材開発に顕著な成果をあげた教員について、その功績を表彰するとともに広く周知することで、本学の教員のさらなる教育活動の改善や意欲向上に資することを目的としている⁶⁾。候補者の教員によるFD（教育改善FD）を実施し、教授法や教材等を共有することで、他の教員が自身の教育改善・授業改善に活用できる環境を整備している。これまでに①アクティブ・ラーニングに関する授業や教材、②ハイブリッド型授業に関する授業や教材、③その他、教育効果の高い新しい教材開発の3つのテーマで対象者を決定してきた。

「動画作成」では、大学において求められ

る基礎的な知識をいつでも学べるための動画を作成し、Moodle 上で公開した。動画のテーマには、「高等教育の基礎」「日本の大学制度」「授業設計と授業方法」「シラバス作成」

などがある。授業設計・方法やシラバスに関する動画は、新任教員研修会や教学マネジメント室が実施しているFDだけでは伝えきれない内容を網羅している。

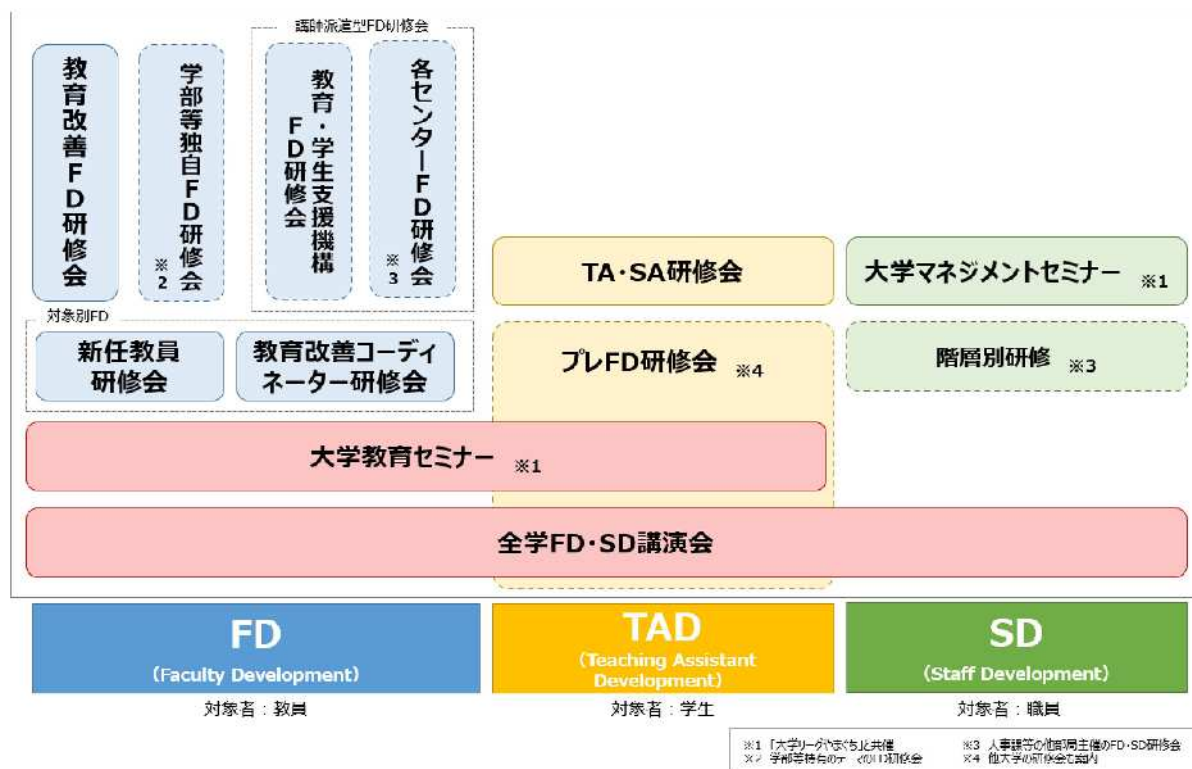


図2 教学マネジメント室の研修体系図

5 IR活動

3つの柱の三つ目である「IR」では、データを活用したサポート体制の確立を目指し、在学中の学生や卒業・修了時の学生、卒業生・修了生、山口大学出身者が勤める企業等向けに対する調査を行った。ここでは、「調査設計」「IR浸透」「SPARC⁷⁾に関わるIR」について内容を報告する。

「調査設計」では、山口大学で実施している調査の把握と整理を行い、教学マネジメント指針に示されているとおり、学生の学修実態や学修成果の把握、教育や学生生活の満足度、教育の改善を促せるように表1に示す6つの調査を実施することとなった⁸⁾。

表1 教学マネジメント室の実施しているアンケート

調査名	対象
学修実態に関するアンケート	在学生 (最終学年を除く)
学修成果に関するアンケート	在学の最終年度
卒業・修了後のキャリア形成に関するアンケート	卒業生・修了生 (卒業・修了後3年)
山口大学出身者の就職先アンケート	過去5年の就職先企業
教員自己評価アンケート	当該科目の担当教員
授業評価アンケート	当該科目の受講学生

「IR 浸透」では、「自学部だけでなく、他学部等と比較しつつ全学的な視点から自学部のデータを見る文化を浸透させる」ことを目的として、①IR データの分析結果の報告書の作成と Web サイトによる公開、②IR ポスターの作成を行った。報告書はこれまでも学内で配布していたが、会議資料として一部の教員が確認するにとどまっていたため、誰でもいつでも確認できる仕組みを構築した⁸⁾。IR ポスターは、教職員に「IR データ」について興味・関心を持ってもらうために作成したもので、現在は1年に1回のペースで発行している。現在第2弾まで発行をしており、今年度第3弾を発行する予定である⁹⁾。

「SPARC に関わる IR」では、2022 年に3大学連携（山口大学、山口県立大学、山口学芸大学）の事業が採択され、教学マネジメント室の教員2名、職員1名が連携教育プログラム委員会の下に設置された教学 IR タスクフォースチームに参画している。このチーム（2023 年2月～）では、SPARC 教育プログラム全体、3大学共通の科目（連携開設科目・共同開設科目）、各大学独自の科目における学習や教育の評価方法やその実施方法、教育改善に向けたデータの分析や利活用について検討している。例えば、2026 年1月現在、SPARC 教育プログラムで身に付けるべき6つの資質・能力に関するルーブリックの策定と実施、教育プログラムに関わるアセスメントプランの策定などを行ってきた。

6 教学 IR と連動した教育改善 FD で教学マネジメントを推進

教学マネジメント室では、教職員の教学マネジメント能力向上に資するため、IR と FD との連携に力を入れている。2022 年度および2023 年度は、全学的な視点において IR データを活用した FD を実施した。2024 年度からは、各学部・研究科ごとの IR データを活用し

た FD を実施することで、データ（エビデンス）に基づいた教育改善を促す環境づくりを進めている。この環境づくりの実現に向けては、各学部等に「教育改善コーディネーター」を配置し、各学部等の課題やニーズを把握している。FD では、教育改善コーディネーターから得た情報をもとに、実態に即した研修を実施している。全学を対象とした IR データを活用してきた 2022 年度および 2023 年度の FD よりも、各学部等にフォーカスを絞って実施することにより、踏み込んだ内容を展開することができる。このような各学部等の教学 IR データを活用した FD を実施していくことで、教員が自分事として捉えやすくなり、自らの教育実践と結びつけて議論できる教学マネジメントを推進する環境を整えることができるものと考えている。

7 おわりに

今後は、教学 IR データを活用した教育の改善を促していくため、FD・SD の考え方を「受動的に参加する」から「自らの教育を見直す場のデザイン」へと教職員の意識を変化させることを目指したい。教学 IR データに基づく議論は、教員の納得感を高め、学部・研究科単位での教育の改善サイクルが回り始めるきっかけとなるものと考ええる。教学マネジメント室が分析したデータを素材として活用してもらい、FD・SD を通じて浮かび上がった課題を再び IR の視点で検討する。このような循環を継続的に回すことが、教育改善の実効性を高めるものと考えている。

（教学マネジメント室 講師）

（教学マネジメント室 講師）

（教学マネジメント室 准教授）

（学生支援部教育支援課教育企画係 係長）

（学生支援部教育支援課 副課長）

（教学マネジメント室 室長・

創成科学研究科 教授）

【注】

- 1) FD は「Faculty Development」，SD は「Staff Development」，TAD は「Teaching Assistant Development」の略。
- 2) IR は「Institutional Research」の略。
- 3) 図 1 は 2021 年度時点のもの。
- 4) 各種ガイドライン：
<https://www.yamaguchi-u.ac.jp/oltm/guidebook/index.html>
- 5) FD 等の詳細：
<https://www.yamaguchi-u.ac.jp/oltm/fdsd/index.html>
- 6) 山口大学ベストティーチング表彰制度：
<https://www.yamaguchi-u.ac.jp/oltm/commend/index.html>
- 7) SPARC（Supereminent Program for Activating Regional Collaboration）は，文部科学省「地域活性化人材育成事業」。採択テーマは，「ひとや地域（まち・文化・教育）の well-being に貢献する文系 DX 人材の育成事業」：
<https://www.yamaguchi-sparc.jp/>
- 8) 教学 IR データの公開：
<https://www.yamaguchi-u.ac.jp/oltm/irdata/index.html>
- 9) 教学 IR ポスター：
<https://www.yamaguchi-u.ac.jp/oltm/ir/index.html>